未来へつなげ！

復興のバトン

東日本大震災津波の記憶と教訓を次世代へ。
復興と共に進む若者たちがいます。

第3回 株式会社 隆勝丸
代表取締役 平子 昌彦 さん（宮古市）

「漁業は自然相手なので、厳しい面もありますが、やりようによっては伸びる産業。そこが魅力」と語る平子さん。講師を務める「いわて水産アカデミー」でも若者に漁業の魅力を伝えています。（日出島の養殖場にて）

漁業はもっと面白くなる

震災後に再起 未経験者にも門戸を広げ ともに新しい漁業を目指す

県や漁業関係団体などが、2019年に設立した「いわて水産アカデミー」では、漁業就業を目指す人が、漁業に必要な知識や技術を学んでいます。この事業に、講師として携わっている平子昌彦（たいこまさひこ）さんは、自身も異業種から転職した一人として漁業の魅力を、次世代に伝えています。

盛岡市出身で、もともと内陸で会社勤めをしていた平子さん。妻の実家が営むホタテの養殖を手伝ううちに、すっかり漁業に魅了され、25歳の時に宮古市に移住し漁師の道に。ところが、就漁5年目に東日本大震災津波で被災。義父を亡くし、船も施設も漁具も流されてしまい、一度は漁業を諦めようとしましたが、漁業の魅力を思い返して再開を決意。

震災後、宮古市の漁業従事者が激減している状況を重く受け止めた平子さん。「これからは漁業の門戸を広げ、未経験者でも携われるようなシステム作りが必要」と、雇用と育成も視野に入れた事業の拡大を目指して、2018年に株式会社隆勝丸を設立しました。

「海は宝。今後は、養殖に限らず、複合的に海を使ったレジャーや観光などを手がけていきたい。そうすれば、漁業がもっと面白くなる。そして、幅広い視野で十手先を考えられる漁師を育てていきたい」と力強く語ります。異業種からの転職は「さまざまな経験を積んできた人は、昔からのあり方に縛られず、新しい風を吹き込んでくれる」と大歓迎。漁業の未来にバトンをつなごうと、新たな仕組みづくりに挑戦し続けます。

平子さん（中央）と、株式会社隆勝丸の皆さん。仕事場は、これまでの漁業のイメージとは異なり、明るい雰囲気。日出島周辺の地域と海の魅力を発信中。

株式会社隆勝丸の主力事業はホタテの養殖。日出島が天然の防波堤となっているため、漁場はプランクトンが豊富で栄養もたっぷり。肉厚で甘みが強い自慢のホタテは、焼いても身が縮まないほど旨味がぎゅっと詰まっています。

株式会社 隆勝丸
ホタテやホヤの養殖、卸売りや直販を中心に、フィッシャーマンツアーや釣り船などの海の楽しさをとことん味わえるアクティビティも積極的に展開。宮古・日出島地域の海を拠点に「おいしい」「楽しい」を提案・発信しています。